

午前10時—午後6時 火曜日休館 入場無料
2024.10.19 土—12.15 日

1
松井沙都子
Signage #1
2022

2
松延総司
Pattern of Dark #1, #2
(Light and Shade)
2019

家具と抽出し
Furniture
and
Drawer



Courtesy of ACC, 2022 | Photo: Yuki Moriya



A
LAB

A-LAB Exhibition Vol.45

会 期	2024年10月19日(土)~12月15日(日)
開館時間	午前10時~午後6時
会 場	A-LAB (えーらぼ) 尼崎市西長洲町2-33-1
休 館 日	火曜日
入 場 料	無料
主 催	尼崎市

開催要旨

「足りないもの」や「見えていないもの」など、ふだんは意識しにくい物事やそのあり方をミニマルな立体造形を通して考察してきた二人のアーティスト、松井沙都子と松延総司による展覧会「家具と抽出し」を開催します。二人の作品は、展示する空間自体も重要な表現の要素となることから、この企画では、出品作家の松井沙都子がゲストキュレーターとして全体のテーマを練り上げ、コラボレーターの松延総司とともに各展示室の構成を行います。

日常生活に空気のように存在している「家具」をモチーフとすることで、私たちがアートを見る目をずらしていくこの試みは、アートを鑑賞するという行為自体への問いかけも含まれています。本展を通してアートへの様々な想像を巡らせ、多くの疑問や発見に出会っていただければ幸いです。

A-LAB

「家具と抽出し」

本展はいわゆる家具の展覧会ではない。展示作品は、もしかすると実際の家具に似ているかもしれないが、その性質や存在の意味は大きく異なる。

私と松延さんの作品は、「欠如」や「地」といった捉えどころのない概念を背景に持つ。一方で両者の作品には、形状や材質、構造といった目に見える要素において、共に「家具」的であるという側面を持つ。他者と共有しづらい概念について、より多くの方に想像を巡らせていただくきっかけとなるよう、本展では「家具」をテーマにすることにした。つまり本展に展示されるのは、実際の家具のようでありながら、家具そのものとは言い切れない、美術作品である。

ちなみに展覧会タイトルの「家具」に続く「抽出し」という言葉は、松延さんが提案してくれたもので、美術批評家の沢山遼さんによる「“抽象”と“抽出し”には関連性がある」との話が参照されている。対象からエッセンスを抽出するという意味を持つ「抽象」には、その語の示す通り「抽出し」からものを取り出す所作に通じているためではないかと、私は考えている。

馴染み深い「家具」の距離感で作品に接しつつ、美術の本質ともいえる「抽象」の面白さに、少しでも触れていただけるような機会となれば幸いです。

松井沙都子（本展ゲストキュレーター／出品作家）

関連イベント

「家具と抽象とアートのお話」

日時：10月26日（土）午後2時～午後3時30分

ゲストに沢山遼さん（美術批評家・武蔵野美術大学准教授）をお招きして、出品作家との対談を行います。定員先着20人。

メール（amalove.a.lab@gmail.com）で申込必要。

イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、お送りください。

■ 沢山 遼（さわやま りょう）

1982年生まれ。

美術批評家・武蔵野美術大学美学美術史研究室准教授。

著書に『絵画の力学』（書肆侃侃房、2020年）。

共著に、国立新美術館（編）『今、絵画について考える』（水声社、2023年）など。



広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ（※6～8ページ参照）をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、A-LABまでお申し込みください。

使用条件：

- ・ 広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
 - ・ トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
 - ・ アーカイブのため、後日掲載紙、URLなどをお送りください。
- 以上、ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

A-LAB（午前10時～午後6時 *火曜日休館）

担当：八木、田野

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課（平日：午前8時45分～午後5時30分）

担当：山城、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

作家略歴

■ 松井 沙都子（まつい さとこ）



1981年 兵庫県生まれ。現在、京都市を拠点に活動
2006年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了
2017年 博士（美術）（京都市立芸術大学）

「足りなさ」という観点から、〈欠如〉を孕む作品を制作している。本展では「現代の日本の家」をモチーフとするインスタレーション作品のほか、「足りなさ」をひとまとまりの構造物に落とし込む「Frames」シリーズを出品する。

【主な個展】

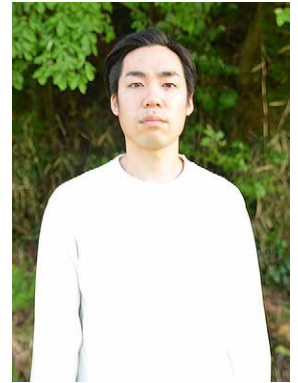
2013年 TWS-Emerging 206 「Blind Place」、トーキョーワンダーサイト本郷、東京
2015年 「ブランクの住空間」、Gallery PARC、京都
2018年 「モデルハウス」、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
2018年 「抽象住宅-ワンルーム-」、ギャラリー恵風、京都
2019年 「ホーム・スイート・ホーム」、MEDIA SHOP gallery 2、京都

【主なグループ展】

2013年 「kyoto studio」、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
2014年 「はならあとこあ」ならきたまちエリア「在り処をみる」、工場跡、奈良
2016年 「TEMPEL/MATERIAL」、大徳寺黄梅院、京都
2021年 セイアンアーツアテンション 14 「Re:Home」、成安造形大学【キャンパスが美術館】、滋賀
2022年 「連続するプロジェクト／インスタレーションを所有する」、BnA Alter Museum、京都
2023年 「zu Hause 自宅と承認」、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）ギャラリーC、兵庫
2023年 「ミニマル美術」、KUNST ARZT、京都
2023年 「outside and the inside 7-眺めのままに」、Ogallery eyes、大阪

作家略歴

■ 松延 総司（まつのべ そうし）



1988年 熊本県生まれ。現在、滋賀県を拠点に活動。
2008年 京都嵯峨芸術大学短期大学部（現：嵯峨美術短期大学）卒業
2023年 ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修

「線」「影」「無意識」「地」など捉えどころのない事物を主題とし、それらがどのように人々に知覚され、存在しているのか、その法則や特性を抽出／再構築するような作品を制作している。

【主な個展】

2019年「See the Shades」、HAGIWARA PROJECTS、東京
2020年「ねじれたネイチャー」、大見新村、京都
2021年「Ghost of Copy」、The Container、東京
2023年「雪のうえにのびる道」、札幌文化芸術交流センター SCARTS、北海道
* アレクサンドル・カトーとの共同制作

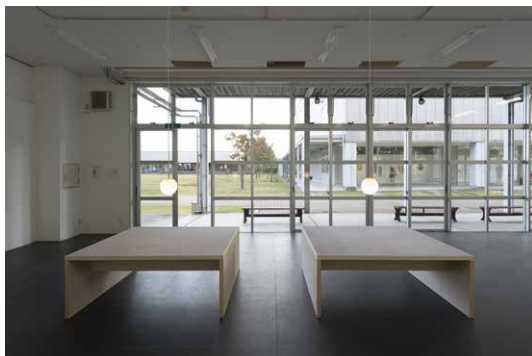
【主なグループ展】

2021年「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立美術館、滋賀
2021年「Ende Neu」、KINDL-Zentrum fürzeitgenössische Kunst、ベルリン・ドイツ
2022年「石と植物」、滋賀県立美術館、滋賀
2024年「VOCA 展 2024 現代美術の展望」、上野の森美術館、東京
2024年「not a house」、MBL Architectes、パリ

【受賞】

2020年 2019年度平和堂財団芸術奨励賞（美術部門）

参考図版



1



2



3



4



5



6

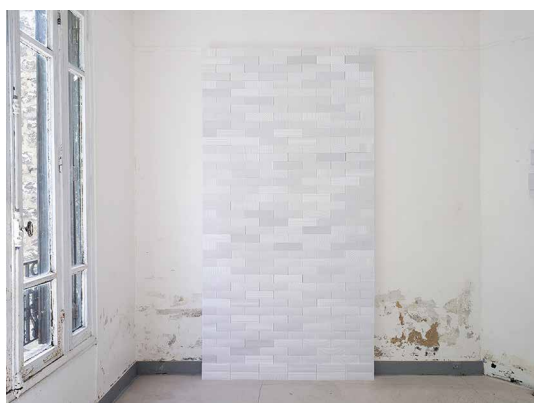
参考図版



7



8



9



10



11



12

参考図版



13

1. 松井沙都子 | 『ホーム・インテリア（部屋）』 | 2021 撮影：Yuki Moriya
2. 松井沙都子 | 『ホーム・インテリア（壁・照明）』 | 2021 撮影：Yuki Moriya
3. 松井沙都子 | 『Signage #1』 | 2022 | Courtesy of ACK 2022, 撮影：Yuki Moriya
4. 松井沙都子 | 『untitled (frames #13)』 | 2023 撮影：WATANABE ERINA
5. 松井沙都子 | 『untitled (frames #14)』 | 2023
6. 松井沙都子 | 『ふつうの家（家族の書架） Ordinary home (family bookshelf)』 | 2023

7. 松延総司 | 『Pattern of Dark #1, #2 (Light and Shade)』 | 2019
8. 松延総司 | 『Knot (Wall drawing) #5』 | 2024
9. 松延総司 | 『Direction of Materials』 | 2024
10. 松延総司 | 『Shelf #1』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura
11. 松延総司 | 『Shelf #4』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura
12. 松延総司 | 『「SHELVES」展 会場風景』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura
13. 松延総司 | 『「SHELVES」展 会場風景』 | 2013 撮影：Hideaki Toyoura

次回展

「JIN, JIYAN, AZADAI 女性、命、自由」

会期：2025年2月1日(土)～3月30日(日)
休館日：火曜(2月11日は開館し、翌日水曜休館。)

概要

第2回白髪一雄現代美術賞受賞者、井上裕加里さんの個展を開催します。

出展作家

■ 井上 裕加里 (いのうえ ゆかり)

1991年 広島県出身。

2012年 倉敷市立短期大学 服飾美術学科 卒業

2014年 成安造形大学 芸術学部芸術学科美術領域現代アートコース 卒業

【近年の主な展覧会】

2021年「Soft Territory かかわりのあわい」、滋賀県立美術館、滋賀

2022年「第1回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川

2022年「Women atone for their sins with death」、KUNST ARZT、京都

2023年「産まみ(む)めも展」、oz studio 渋谷東、東京

他多数

【近年の主な受賞】

2022年 第1回 MIMOCA EYE / ミモカアイ 選考委員 植松由佳 賞

2023年 第2回 白髪一雄現代美術賞

2024年 第1回 サゴリリサーチアワード 特別賞(加納実紀代応援賞)

他多数

参考作品画像



《Shadow works | 2022》撮影 木奥恵三